

★学校教育目標	夢に向かって やさしく かしく たくましく	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）		「子供たちがつくる学校」プロジェクト、「ドリームエンパワーメント」プロジェクト 児童一人一人がもっている力を発揮し、他者と協力して、より自発的に行動できる児童の育成 ＜具体的な活動内容＞ ① 学校行事への参画（児童主体に移譲） ② 学校のきまり（見直し及び策定） ③ たてわり班活動（年間計画、月計画の発信） ④ 委員会・クラブ活動（自主的活動の促進） ⑤ 体力アップタイム（たてわり班による体力向上） ⑥ プロジェクトタイム（たてわり班での学び合い）
【目指す児童・生徒像】	○集団 ⇒ 集団の中で自分がどうあるべきかを考え、行動できる児童 ○探究 ⇒ 自ら問いをもち、思考・判断・表現したことを生かせる児童 ○協働 ⇒ 人との関わりや地域を大切にできる児童	
【目指す学校像】	○児童一人一人が生き生きと学び、笑顔輝く学校 ○教職員・児童が生き生きと日々の教育実践に励む学校 ○保護者・地域が信頼をよせ、地域と共に歩む学校	
【目指す教師像】	○児童一人一人を大切に、児童理解と指導力を進んで学ぶ教師 ○組織（チーム夢が丘小）として協働する教師	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策	
				評価点	取組指標		評価点			成果指標
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	学びの羅針盤・創造 学びを児童主体に移譲し、自らの意思と他者の考えを取り入れ、協働して、より自発的に行動できる力を育む	児童が自主的・主体的に活動できる様々な場を設定し、自ら考え、判断し、表現できる力を身に付けられるようにする	・特色ある学校づくりを推進するため、児童がもっている力を発揮し、他者と協力し、学校行事への参画・学校の決まりの策定・たてわり班活動の充実など、自発的に行動・活動ができる指導・支援を行う	3	4	児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が90%以上	3	4	「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が90%以上	評議員評価：3.7 ・たてわり班での活動の成果として、全校児童が仲良くしている姿が見られる。 ・自ら考えて行動を起こすということが当たり前に行えるように積み重ねていくことが大切である。 ・挨拶はこちらからすれば返ってくる。 ・挨拶はこちらからすれば返ってくる。
	3	児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が80%以上	3		「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が80%以上					
2	児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が70%以上	2	「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が70%以上							
1	児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が70%未満	1	「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が70%未満							
教職員の挑戦 楽しくわかる授業を創造し、主体的対話的に深く学ぶ授業を展開する	・ねらいを明確にした意図的・計画的な授業を展開する ・学習者用端末を効率的に活用し、一人一人の確かな学力の向上を図る	・児童の実態に即した教材研究を行い、身に付けさせたい力と学習のゴール地点を明確にした授業を行う ・教員の専門性を生かした授業交換・単元交換授業を実施する ・学習者用端末やICT機器を授業に積極的に活用し、「できる」「分かる」授業を展開する	4	4	考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員が90%以上	4	4	「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が90%以上	評議員評価：3.7 ・児童に対し、「分かる授業」をするために、教員が努力をしていると感じる。できるようになったことが増えたと回答した児童の姿を想像すると、嬉しく思う。 ・教員の専門性を生かした授業は、学ぶ方も教える方、双方ともよい効果があると思う。	
				3	考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員が80%以上		3	「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が80%以上		
				2	考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員が70%以上		2	「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が70%以上		
				1	考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員が70%未満		1	「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が70%未満		
みんなの多様な学びとあわせをつくる	探究的な深い学び 自ら課題を設定し、興味関心を高め、解決しようとする力をさらに次への課題に結び付けていく力を育む	自ら問いをもち、思考・判断・表現したことを生かせる指導の工夫を取り入れた授業を展開する	・学ぶ意欲を育むため、個に応じた学習課題を設定し、興味関心を高めさせる ・家庭学習において、「基礎学習」「自主学習」のほか、授業内だけでなく学習者用端末を活用した「デジタル学習」を取り入れ、興味関心のある課題を追究できる場面を設定する	3.5	4	学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が90%以上	4	4	「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が90%以上	評議員評価：3.5 ・廊下に掲示されているものから、自分なりに深く追求している様子が伺える。 ・家庭においては児童の様子だけでなく、学習の様子も見守るようになってほしい。 ・興味・関心に応じて、デジタル学習を活用して学習内容を先に進めるようだが、実際にはどれくらいいるのか。課題の出し方に工夫が必要ではないか。
	3	学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が80%以上	3		「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が80%以上					
	2	学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が70%以上	2		「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が70%以上					
	1	学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が70%未満	1		「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が70%未満					
居場所・活躍 異年齢集団による活動を実施し、互いを思いやる心で協力して活動しようとする意欲、学校の一員としての所属感・連帯感を育てる	高学年を中心に、「何を」「なぜ」「どのようにしたいのか」を問わせながら、企画力・判断力・創造力・表現力を向上させる	・異学年間の交流を深めるために、たてわり班活動を中心に、全校遠足、月1回のプロジェクトタイムや体力アップタイムなどの活動を設定する	3	4	たてわり班活動で話し合って決めた内容を行事に反映させる支援ができた教員が90%以上	4	4	「プロジェクトタイムは楽しくみんなで活動できた」と答えた児童が90%以上	評議員評価3.9 ・児童の自主性を重んじながら展開されていると感じる。ロング中休みには児童と一緒に遊ぶ教員は大変と思うが、遊びながら体力向上ができたら素晴らしい。 ・体育の学習では、他の児童の様子を見て、アドバイスをしたり励ましの声をかけたりするのがとても良かった。	
	3	たてわり班活動で話し合って決めた内容を行事に反映させる支援ができた教員が80%以上		3	「プロジェクトタイムは楽しくみんなで活動できた」と答えた児童が80%以上					
	2	たてわり班活動で話し合って決めた内容を行事に反映させる支援ができた教員が70%以上		2	「プロジェクトタイムは楽しくみんなで活動できた」と答えた児童が70%以上					
	1	たてわり班活動で話し合って決めた内容を行事に反映させる支援ができた教員が70%未満		1	「プロジェクトタイムは楽しくみんなで活動できた」と答えた児童が70%未満					
対話・協働 集団活動の中で、自分の役割や自分のよさを発揮し、話し合い活動を通して、よりよい人間関係や学校生活を築こうとする態度を育てる	校内研究を通して、話し合う場を意図的に構成した学びの工夫を取り入れた授業を展開する	・児童自らが学びを深めていけるようにするために、特別活動（話し合い活動）を基本に、他教科でも自らの考えを伝え、意見を交わし、まとめたり再考したりする活動を取り入れた授業を展開する ・生活・総合的な学習の時間を中心に、みんなが当事者として、「対話をしたくなる授業」「児童の考えが広がる授業」「自由に発想できるような授業」を展開する	3	4	話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が90%以上	3	4	「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が90%以上	評議員評価：3.5 ・児童全員が遠慮なく話せる環境を整えてほしい。 ・自分の考えを認めてもらった（受け入れてもらった）と実感する体験はとても大切である。相手の考えを聞いて考えを改めたり異なる発想につなげたりする体験もしてほしい。 ・話し合うことよさ、面白さを味わってほしい。	
	3	話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が80%以上		3	「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が80%以上					
	2	話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が70%以上		2	「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が70%以上					
	1	話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が70%未満		1	「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が70%未満					
多様な参画 保護者、地域、近隣施設や異校種などとの交流を通して、自然や地域を愛する豊かな心、思いやりの心を育てる	・幼保小中、七生特別支援学校、地域施設と連携し、交流を生かしたインクルージョン教育の推進を図る ・学校支援コーディネーターと協働し、児童のもつ様々な興味関心を引き出す企画を実施する ・学校からの情報を適宜発信し、本校の教育活動について理解を促進する ・コミュニティスクール発足に向け、地域と連携・協働していく	・多様性の理解を深めるために、異校種との交流授業や地域を活用した授業を全ての学年で設定する ・教育活動の充実を図るため、学校行事、漢字検定、体力テスト、学習での補助などの活動支援を依頼する ・学校の様子を知らせ、教育活動を理解してもらうために、ホームページ、C4th Home&Schoolを活用し、積極的に発信する ・地域の特性を生かすだけでなく、学校と地域を繋げ、よりよい教育環境を作り上げるため、学校情報を提供・発信・周知・理解を促進していく	3.5	4	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が90%以上	4	4	「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が90%以上	評議員評価：3.8 学校から発行されている通信は、児童の様子が分かる発信をしていると思う。 ・地域との連携を学習に多く取り入れるようになったことで、学校の教育活動を理解してもらえる機会も増えてきている。 ・情報モラルについて、保護者・児童への周知が十分でなかったことから、今後、夢小SNSルールをアピールして、情報モラルの認識を高めていく必要がある。	
	3	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が80%以上		3	「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が80%以上					
	2	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が70%以上		2	「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が70%以上					
	1	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が70%未満		1	「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が70%未満					

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。